

2026（令和8）年度以降入学者対象

副専攻ガイドブック



三重大学 共通教育

<https://www.ars.mie-u.ac.jp>

はじめに — 副専攻制度とは

現代社会は多様な価値観に基づく複雑な社会です。卒業後にこうした社会で活躍するためには、所属する学部・学科・コースのカリキュラムに基づく専攻（主専攻）を学びつつ、それとは異なる視点の講義を履修し、幅広い教養と多面的な見方を学んでおくことが大切です。多くの先進的な大学では、主専攻とは異なる専攻（副専攻）を修得できるプログラムを開設していますが、三重大学では共通教育の教養基礎科目（副専攻科目）の中から関連する分野の講義を一定数修得することで、その分野の副専攻修得が認定されます。

ここでは Q&A 形式で簡単に三重大学共通教育副専攻制度を概観しておきます。

Q：副専攻分野はいくつありますか？

A：歴史・文化分野、環境・科学分野、健康・医療・福祉分野、教育・公共分野、社会・経済分野、国際・外国語分野の 6 分野です。

Q：副専攻修得は卒業するために必須ですか？

A：副専攻の修得は任意です。また、修得の要件を満たしていても、申請しなければ認定されません。

Q：副専攻の修得には何単位必要ですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）の同一分野から 10 単位以上を修得していることが認定の要件です。

Q：どの科目がどの分野に属しているのかは、どこを見たら分かりますか？

A：このガイドブックの科目一覧や「共通教育履修案内」で確認してください。また、教養基礎科目（副専攻科目）のシラバスには副専攻分野の記載があります。

Q：複数の分野に同じ科目名の講義があるのはなぜですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）は、学際的な異分野連携の科目が多く、複数の副専攻分野に登録されている科目があります。

Q：複数の分野の副専攻を修得することはできますか？

A：可能です。ただし、複数の分野に登録されている科目は、一つの分野の申請にしか使えません。

Q：副専攻の申請はいつ行いますか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）の履修のペースは学部・学科・コースによって異なります。申請は各学年末に受け付けますが、“教養基礎科目（副専攻科目）に関する要件”が満たされてから申請を行ってください。“教養基礎科目（副専攻科目）に関する要件”については履修単位表もしくはこの冊子 10 ページで確認してください。

教養基礎科目（副専攻科目）の履修と副専攻制度

三重大学の共通教育は「大学基礎科目」、「教養基礎科目（副専攻科目）」、「専攻基礎科目」からなります。この冊子では、副専攻制度の対象となる「教養基礎科目（副専攻科目）」について、詳しく説明します。ただし、学部・学科・コースによっては、「専攻基礎科目」の中に「教養基礎科目（副専攻科目）」の科目が指定されている場合があります。それらは学部・学科・コースで主専攻の基礎となる科目として指定されているものなので、副専攻の修得単位としては認められません。「専攻基礎科目」については「共通教育履修案内」にある各学部・学科・コース別の履修単位表でよく確認してください。

分類	領域・分野		単位数
大学基礎科目	領域	スタートアップセミナー	2
		キャリア教育	2
		外国語（英語）	4
		データサイエンス	4
		スポーツ健康科学	1
教養基礎科目 （副専攻科目）	分野	歴史・文化	13
		環境・科学	
		健康・医療・福祉	
		教育・公共	
		社会・経済	
		国際・外国語	
専攻基礎科目	学部・学科・コースで指定		0～18

1. 教養基礎科目（副専攻科目）

教養基礎科目（副専攻科目）は多岐にわたる内容の授業が開講されており、大きく次の6分野に区分されます。授業科目によっては複数の分野に位置付けられているものもあります。

また、教養基礎科目（副専攻科目）として開講されている授業は、同一分野の科目を10単位以上修得し、所定の申請手続きを行うことで、当該分野が**副専攻として認定されます**。副専攻は一つの分野に限らず、複数の分野で申請・修了することが可能です。副専攻制度は、専門教育の専攻だけではない幅広い教養を身につけ、柔軟な発想や応用力、総合的理解力を育成することを目的とした制度ですので、各学部の専門（主専攻）とは異なる分野で認定を受けることを推奨します。

なお、副専攻としての教養基礎科目（副専攻科目）の履修および申請は任意です。

(1) 歴史・文化分野

情報化社会の発展に伴って、地域と密接に関わりつつ、グローバルな視点を持って活躍できる人材の育成がますます求められています。そのような人材に必要とされるのが、自国と諸外国の歴史や文化に対する深い洞察です。本分野では歴史、文化、思想、生活をテーマとするバラエティに富んだ授業科目を履修することができます。また、それによって、単一の価値観のみにとらわれない、豊かな発想と広い視野を獲得することを目指します。

哲学A	日本文化論A	言語学A
哲学F	日本文化論B	言語学F
哲学G	西洋史A	日本学
哲学H	西洋史B	三重学1
哲学I	西洋史C	P B L 数理科学
倫理学A	西洋文化史	物理学1
倫理学B	東洋史A	生物学1
倫理学F	東洋史B	自然科学概論1
倫理学G	東洋文化史	P B L 自然科学概論
倫理学H	演劇入門	環境科学1
倫理学I	日本文学A	音楽文化論
宗教学A	日本文学B	日本理解特殊講義1
宗教学B	日本文学C	日本理解特殊講義2
宗教学C	日本語学A	現代社会理解特殊講義4
宗教学D	日本語学B	国際理解実践1
日本考古学A	比較文化論	国際理解特殊講義1
日本考古学B	文化人類学A	国際理解特殊講義2
日本史A	文化人類学B	国際理解特殊講義3
日本史B	人文地理学A	現代科学理解特殊講義1
日本史C	人文地理学B	P B L 現代科学理解特殊講義1
日本史D	人文地理学C	アントレプレナーシップ基礎A
日本史資料学	文化と空間B	アントレプレナーシップ基礎E
		みどりのアントレプレナーシップ論

(2) 環境・科学分野

環境問題は様々な分野に関わる複雑な問題です。解決の糸口を得るためには、問題の本質を理解し、複合的な視点から洞察する力が必要です。また、環境問題に限らず、健康管理、原子力など科学技術的側面を持つ問題、社会的問題についても、数理学、物理学、化学、生物学をはじめ、自然科学諸分野の知見に基づいて判断する力が必要です。そこで、本分野では環境問題や様々な自然科学の基礎理解を深め、科学的な考え方を習得します。

スポーツ健康科学概論	物理学2	科学的地域環境概論 I
P B L アカデミック・ライティング	化学A	科学的地域環境概論 II
哲学 I	化学B	生物資源学A
経済学F	生物学1	生物資源学B
経済学G	生物学2	地域防災論
三重学2	生物学3	防災論
情報科学A	生物学4	日本理解特殊講義 1
情報科学B	自然科学概論 1	現代社会理解特殊講義 1
情報科学C	自然科学概論 2	現代社会理解実践 1
情報科学D	自然科学概論 3	現代科学理解特殊講義 1
データサイエンスIII	P B L 自然科学概論	現代科学理解特殊講義 2
数理学A	医学医療A 2	P B L 現代科学理解特殊講義 1
数理学B	医学医療B 2	P B L 現代科学理解特殊講義 2
数理学C	医学医療C 1	P B L 現代科学理解特殊講義 3
数理学D	環境学A	アントレプレナーシップ基礎 B
数理学E	環境学F	アントレプレナーシップ基礎 D
数理学F	環境地理学A	アントレプレナーシップ実践 B
数理学G	環境地理学B	アントレプレナーシップ実践 C
数理学H	環境地理学C	アントレプレナーシップ実践 D
数理学I	環境科学 1	みどりのアントレプレナーシップ論
P B L 数理学	環境科学 1	
物理学 1	環境科学 2	

(3) 健康・医療・福祉分野

人体の仕組みと働き、疾患のメカニズム、医学・医療の発展、健康管理、保健衛生、社会保障など、健康・医療・福祉を多面的な観点から理解することにより、深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養するとともに、自律的・能動的な学修姿勢の醸成、地域活性化・グローバル化に対応できる力を育成します。また、スポーツ実践を通して他者との豊かなコミュニケーションを図るとともに、スポーツ科学や健康学の知見に基づいて、健康的な生活ができる自己管理能力を育成します。

スポーツ健康科学B スポーツ健康科学概論 PBLアカデミック・ライティング こころのサポート 心理学A 心理学F 経済学B 三重学2 化学A 化学B 生物学2	入門生物学 自然科学概論2 医学医療A1 医学医療A2 医学医療B1 医学医療B2 医学医療C1 医学医療C2 医学医療D 医学医療E 医学医療入門	国際保健と地域医療 PBL医学・看護学 環境学F 環境科学2 生物資源学B 日本理解特殊講義3 現代社会理解実践2 PBL現代科学理解特殊講義3 アントレプレナーシップ基礎B アントレプレナーシップ実践B
---	--	---

(4) 教育・公共分野

個の成長を支え幸福を追求し、ひいては社会を維持し発展させていくための教育の諸問題を理解するためには、哲学、心理学、社会学、医学、数理科学などの幅広い知識を習得することが必要です。また、異なる考えや価値観の人たちが、どのように合意を作り解決していくかという公共の諸問題を理解するためにも、同様のことがいえます。本分野では、教育と公共の現代的諸問題に対応し解決を図ろうとする態度を、知識習得と探求・議論を往復する対話的で深い学びによって身につけていきます。

スポーツ健康科学概論	数理科学E	日本理解特殊講義 2
こころのサポート	数理科学F	日本理解特殊講義 3
心理学A	数理科学G	日本理解特殊講義 4
心理学F	数理科学H	現代社会理解特殊講義 1
法学A	数理科学I	現代社会理解特殊講義 2
法学C	物理学 1	現代社会理解実践 2
法学F	物理学 2	現代社会理解実践 3
法学G	化学A	国際理解実践 2
政治学B	生物学 1	国際理解特殊講義 1
政治学F	生物学 2	国際理解特殊講義 2
政治学G	生物学 3	国際理解特殊講義 4
P B L 政治学 2	自然科学概論 2	国際理解特殊講義 5
経済学B	自然科学概論 3	P B L 現代科学理解特殊講義 3
経済学G	医学医療A 2	インターンシップ入門
人文地理学A	医学医療B 2	ピアサポート実践
人文地理学B	医学医療C 2	学習支援実践
人文地理学C	医学医療D	学生生活支援実践
文化と空間A	医学医療E	ビジネスキャリア入門
文化と空間B	医学医療入門	社会連携型実践
文化と空間C	環境学A	知財学
三重学 1	環境学F	アントレプレナーシップ基礎 A
地域学	環境地理学A	アントレプレナーシップ基礎 C
情報科学A	環境地理学B	アントレプレナーシップ基礎D
情報科学B	環境地理学C	アントレプレナーシップ基礎E
情報科学C	環境科学 1	アントレプレナーシップ実践 A
情報科学D	科学的地域環境概論 I	アントレプレナーシップ実践 C
数理科学A	科学的地域環境概論 II	アントレプレナーシップ実践 D
数理科学B	生物資源学A	地域インターンシップ
数理科学C	地域防災論	
数理科学D	日本理解特殊講義 1	

(5) 社会・経済分野

国際社会に対応できる能力を育成するために、社会・経済に関する様々な事柄を学びます。社会は、異なる価値観を持った多数の人が集まって形成されます。家族、労働、教育、地域社会、メディアなどの多くのテーマについて学びます。また、私たちが生活する上で問題となる、生産や消費売買などの経済活動について学びます。

P B L アカデミック・ライティング 西洋史 C 比較政治文化 心理学 A 心理学 F 日本国憲法 法学 B 社会学 A 社会学 B 政治学 A 政治学 B 政治学 F 政治学 G P B L 政治学 1 P B L 政治学 2 経済学 A 経済学 B 経済学 F 経済学 G 人文地理学 A 人文地理学 B 人文地理学 C 文化と空間 A 文化と空間 B 文化と空間 C 三重学 1	三重学 2 情報科学 A 情報科学 B 情報科学 C 情報科学 D 数理科学 H 数理科学 I 物理学 2 自然科学概論 3 P B L 自然科学概論 医学医療 C 2 環境学 A 環境地理学 A 環境地理学 B 環境地理学 C 環境科学 2 科学的地域環境概論 I 科学的地域環境概論 II 生物資源学 A 地域防災論 日本理解特殊講義 3 日本理解特殊講義 4 日本理解特殊講義 5 現代社会理解特殊講義 1 現代社会理解特殊講義 2 現代社会理解特殊講義 3	現代社会理解特殊講義 4 現代社会理解実践 1 国際理解実践 1 国際理解特殊講義 4 現代科学理解特殊講義 1 P B L 現代科学理解特殊講義 1 インターンシップ入門 ピアサポート実践 学習支援実践 学生生活支援実践 ビジネスキャリア入門 社会連携型実践 知財学 アントレプレナーシップ基礎 A アントレプレナーシップ基礎 B アントレプレナーシップ基礎 C アントレプレナーシップ基礎 D アントレプレナーシップ基礎 E アントレプレナーシップ実践 A アントレプレナーシップ実践 B アントレプレナーシップ実践 C アントレプレナーシップ実践 D 地域インターンシップ みどりのアントレプレナーシップ論
--	---	---

(6) 国際・外国語分野

異なる文化や言語を持つ人々と深く交流するには、その背景にある価値観に興味と関心を持ち、尊重することが求められるとともに、自身の主張を明確に伝える語学力とコミュニケーション力が必要になります。本分野では、様々な語学をはじめ、政治経済、教育、保健医療などのテーマにも関わる授業を通して、国際理解のための技能と知識を身に付け、演習などを通じて情報収集・伝達や相互理解の方法を実践的に学ぶことで、多様な文化・言語を背景とする人々と協働する力を涵養します。

英語 I TOE I C	国際理解特殊講義 2	ロシア語 I B b
英語 I 初級 TOE I C	国際理解特殊講義 3	スペイン語 I A a
英語 II 発展 A a	国際理解特殊講義 4	スペイン語 I A b
英語 II 発展 A b	国際理解特殊講義 5	スペイン語 I B a
英語 II 発展 B	ドイツの文化	スペイン語 I B b
英語 II 発展 C	ドイツ語 I A a	ポルトガル語 I A a
英語 II 発展 D	ドイツ語 I A b	ポルトガル語 I A b
英語 II 発展 E	ドイツ語 I B a	ポルトガル語 I B a
宗教学 A	ドイツ語 I B b	ポルトガル語 I B b
法学 F	フランス語 I A a	ドイツ語 II 総合 a
政治学 G	フランス語 I A b	ドイツ語 II 総合 b
P B L 政治学 1	フランス語 I B a	ドイツ語 II 演習 a
経済学 A	フランス語 I B b	ドイツ語 II 演習 b
言語学 F	中国の文化	フランス語 II 総合 a
地域学	中国語 I A a	フランス語 II 総合 b
生物学 4	中国語 I A b	フランス語 II 演習 a
医学医療 E	中国語 I B a	フランス語 II 演習 b
国際保健と地域医療	中国語 I B b	中国語 II 総合 a
日本理解特殊講義 2	朝鮮・韓国語 I A a	中国語 II 総合 b
日本理解特殊講義 5	朝鮮・韓国語 I A b	中国語 II 演習 a
現代社会理解特殊講義 2	朝鮮・韓国語 I B a	中国語 II 演習 b
現代社会理解特殊講義 4	朝鮮・韓国語 I B b	アントレプレナーシップ基礎 C
国際理解実践 1	ロシア語 I A a	
国際理解実践 2	ロシア語 I A b	
国際理解実践 3	ロシア語 I B a	

2. 副専攻の申請時期および留意事項

(1) 申請時期

副専攻認定の申請時期は各学年末です。ただし、最終学年に申請を希望する場合は、最終学年 9 月までに全学共通教育センター (kyotu-kyomu[at]ars.mie-u.ac.jp ※[at]は@(アット)に置き換えてください。)に連絡してください。手続きのしかたはこのガイドブックの“4. 副専攻の申請手続き”を参照してください。

(2) 留意事項

教養基礎科目（副専攻科目）は 1～3 分野に属しています。複数の副専攻分野を申請する場合は、一つの授業科目は一つの副専攻分野の申請にのみ使用できます。重複履修した授業科目（「共通教育履修案内第 2 部 3. (2)」参照）は、副専攻の申請では一つの授業科目として取り扱われます。

なお、専攻基礎科目として教養基礎科目（副専攻科目）いくつかを履修することが指定されている学部・学科・コースがあります。それらの教養基礎科目（副専攻科目）の単位は副専攻の単位に含めることはできません。

また、副専攻の申請は、それらの“専攻基礎科目としての履修が指定されている教養基礎科目（副専攻科目）”の単位をすべて修得してから行ってください。この時期に関する制限は、副専攻を申請することによって主専攻の卒業要件が満たせなくなってしまうようなことを防ぐためのものです。

3. 副専攻の認定

申請手続きが完了し、副専攻が認定された場合は、卒業時に三重大学共通教育副専攻修了証が卒業証書とともに授与されます。副専攻修了証の再発行は行いませんので、大切に保管してください。

なお、就職活動等で卒業前に証明が必要な場合は、副専攻修了見込み証明書が発行されますので、そちらを使用してください。副専攻修了見込み証明書の詳細については、moodle コース「共通教育学生掲示板」で改めて案内します。

4. 副専攻の申請手続き

副専攻の申請は各学年の年度末（3月）に行います。申請期間の詳細は、「共通教育行事予定表」で確認できます（「共通教育学生掲示板」でも周知します）。期間外の申請は受け付けません。

申請は「共通教育学生掲示板」から申請用ファイル（Excel）をダウンロードし、下記の手順にしたがって行ってください。

【申請前の注意】

副専攻の申請は、所属学部・学科・コースで専攻基礎科目としての履修が指定されている教養基礎科目（副専攻科目）の単位がすべて修得できているかを確認してください。（“教養基礎科目（副専攻科目）に関する要件”）

専攻基礎科目としての履修が指定されている教養基礎科目（副専攻科目）

人文学部・文化学科

- ・未習外国語8単位分として履修するスペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、ロシア語（中国語、ドイツ語、フランス語から8単位を修得している場合は該当しない）
- ・「英語 I TOEIC」2単位
- ・任意の教養基礎科目（副専攻科目）8単位

人文学部・法律経済学科

- ・未習外国語4単位分として履修するスペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、ロシア語（中国語、ドイツ語、フランス語から4単位を修得している場合は該当しない）
- ・「英語 I TOEIC」2単位
- ・「経済学A～G」から2単位
- ・「法学A～G」または「政治学A～G」から2単位

医学部・看護学科

- ・「医学医療C2」2単位
- ・「医学医療D」2単位

工学部・総合工学科建築学コース

- ・任意の教養基礎科目（副専攻科目）8単位（最大*）
- *他コース向けの専攻基礎科目の履修で置き換えることが可能

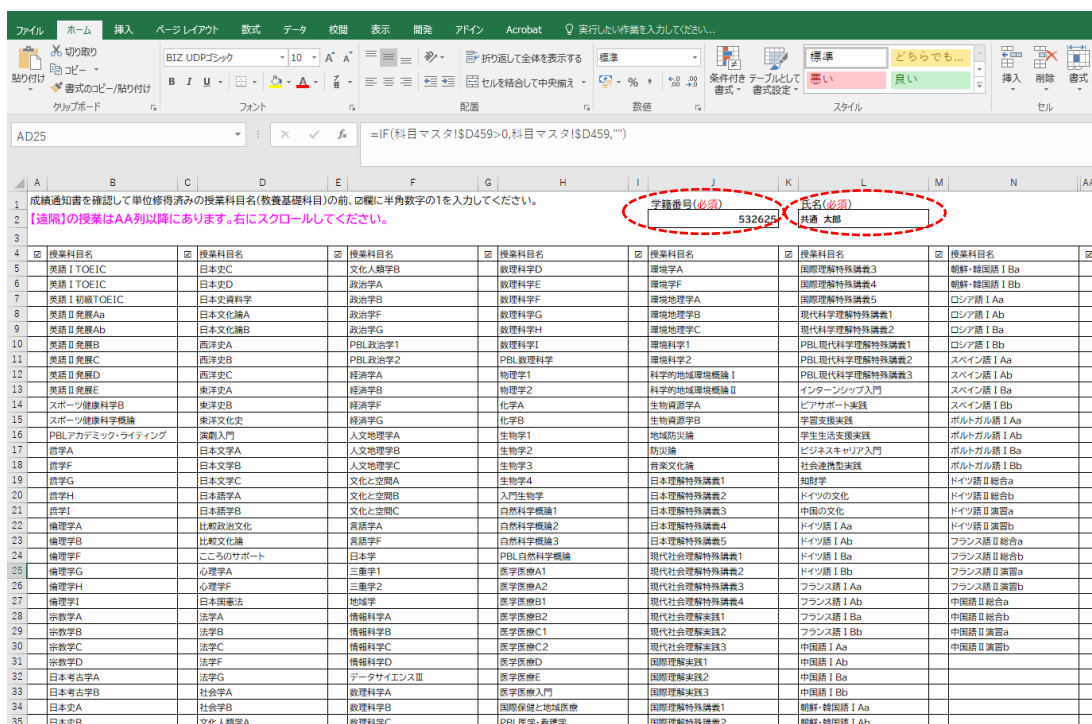
上記以外の学部・学科・コースでは専攻基礎科目としての履修が指定されている教養基礎科目（副専攻科目）はありません。なお、教養基礎科目（副専攻科目）を同一分野から10単位以上修得していても、要件

を満たしていない場合は副専攻の修得は認められません。

申請ファイルの記入は、“修得したすべての教養基礎科目（副専攻科目）の登録”（手順①）→ “専攻基礎目として履修した科目の除外”（手順②）→ “申請科目・分野の決定”（手順③）→ “申請書の確認”（手順④）の流れで行います。教育学部、医学部・医学科、建築コース以外の工学部、生物資源学部については“手順②”は必要ありません。

【手順①】

“修得済み科目入力シート”の上部にある学籍番号・氏名のセルに入力してください。学籍番号は半角数字6桁です。



次に成績通知書を見ながら、単位修得済みのすべての“教養基礎科目（副専攻科目）”のチェック欄に半角数字“1”を入力してください（次ページの図）。「英語 I TOEIC」については、火曜クラスで1単位、木曜クラスで1単位の計2単位をセットで履修しているので、原則として両方に“1”を入力してください。また、成績通知書の科目名に“【遠隔】”が付いている場合は、必ず本シートでも“【遠隔】”が付いている授業科目名のチェック欄に入力してください。間違って選択してしまった場合は、Delete キーで“1”を削除し、選択し直してください。

すべての科目の入力が終わったら、“確認シート”のシートタブをクリックしてください。

AD9 =IF(科目マスタ\$D443>0,科目マスタ\$D443,"")

1	成績通知書を確認して単位取得済みの授業科目名(教養基礎科目)の前、右欄に半角数字の1を入力してください。							
2	【遠隔】の授業はAA列以降にあります。右にスクロールしてください。							
3					学籍番号(必須)	氏名(必須)		
3					532625	共興 太郎		
4	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位
5	英語1 TOEIC	1	日本語C	1	文化人類学B	1	環境学A	1
6	英語1 TOEIC	1	日本語D	1	政治学A	1	環境学B	1
7	英語1 初級TOEIC	1	日本史概論	1	政治学B	1	環境地理学A	1
8	英語II 発展Aa	1	日本文化論A	1	政治学F	1	環境地理学B	1
9	英語II 発展Ab	1	日本文化論B	1	政治学G	1	環境地理学C	1
10	英語II 発展Ba	1	西洋史A	1	政治学H	1	現代科学理解特殊講義1	1
11	英語II 発展Bb	1	西洋史B	1	PBL政治学1	1	現代科学理解特殊講義2	1
12	英語II 発展Ca	1	西洋史C	1	PBL政治学2	1	環境科学1	1
13	英語II 発展Cb	1	西洋史D	1	政治学E	1	環境科学2	1
14	英語II 発展E	1	東洋史A	1	経済学B	1	科学的地理環境概論1	1
15	スポーツ健康科学B	1	東洋史B	1	経済学F	1	科学的地理環境概論2	1
16	スポーツ健康科学B	1	東洋史C	1	経済学G	1	生物資源学A	1
17	PBLアカデミックライティング	1	東洋史D	1	経済学H	1	ヒアサポート実習	1
18	哲学A	1	演劇入門	1	化学A	1	学芸支援実習	1
19	哲学B	1	日本語A	1	化学B	1	学生生活支援実習	1
20	哲学C	1	日本語B	1	生物学1	1	ボトガル講座1Aa	1
21	哲学D	1	日本語C	1	生物学2	1	ボトガル講座1Ab	1
22	哲学E	1	日本語D	1	生物学3	1	ボトガル講座1Ba	1
23	哲学F	1	日本語E	1	生物学4	1	ボトガル講座1Bb	1
24	哲学G	1	日本語F	1	文化と空間A	1	ドイツ語II総合a	1
25	哲学H	1	日本語G	1	文化と空間B	1	ドイツ語II総合b	1
26	哲学I	1	日本語H	1	文化と空間C	1	ドイツ語III総合a	1
27	倫理学A	1	比較政治文化	1	言語学A	1	ドイツ語III総合b	1
28	倫理学B	1	比較文化論	1	言語学B	1	フランス語II総合a	1
29	倫理学C	1	こころのサポート	1	言語学C	1	フランス語II総合b	1
30	倫理学D	1	心理学A	1	言語学D	1	フランス語III総合a	1
31	倫理学E	1	心理学B	1	三番学1	1	フランス語III総合b	1
32	倫理学F	1	心理学C	1	三番学2	1	フランス語IV総合a	1
33	倫理学G	1	心理学D	1	三番学3	1	フランス語IV総合b	1
34	倫理学H	1	心理学E	1	三番学4	1	中国語II総合a	1
35	倫理学I	1	心理学F	1	三番学5	1	中国語II総合b	1
36	宗教学A	1	日本国憲法	1	医学医療A1	1	中国語III総合a	1
37	宗教学B	1	哲学A	1	医学医療A2	1	中国語III総合b	1
38	宗教学C	1	哲学B	1	医学医療B1	1	韓国語II総合a	1
39	宗教学D	1	哲学C	1	医学医療B2	1	韓国語II総合b	1
40	宗教学E	1	哲学D	1	医学医療C1	1	中国語IV総合a	1
41	宗教学F	1	哲学E	1	医学医療C2	1	中国語IV総合b	1
42	宗教学G	1	哲学F	1	医学医療D	1	国際語1Aa	1
43	宗教学H	1	法学A	1	データサイエンスI	1	国際語1Ab	1
44	宗教学I	1	法学B	1	データサイエンスII	1	国際語1Ba	1
45	日本考古学A	1	社会学A	1	教育科学A	1	国際語1Bb	1
46	日本考古学B	1	社会学B	1	教育科学B	1	国際語2Aa	1
47	日本史A	1	社会学C	1	教育科学C	1	国際語2Ab	1
48	日本史B	1	文化人類学A	1	PBL医学看護学	1	朝鮮・韓国語1Aa	1
49							朝鮮・韓国語1Ab	1

【手順②および③】

“確認シート”には手順①で選択されたすべての科目とその単位数、科目に対応した副専攻分野が表示されています(次ページの図)。

はじめに、表示されている科目の中で“専攻基礎科目”として履修したものを登録します。登録は専攻基礎科目のチェック欄に半角数字“1”を入力して行います(手順②)。

①入力シートで選択した授業科目の一覧が表示されます。単位取得済みの授業科目に印がないことを確認してください。
 ②単位取得済みの授業科目が副専攻のどの分野に所属しているかが●で表示されています。
 ③副専攻の各分野名称の下には単位が表示されています。右はあなたがこの分野で単位取得済みの授業科目の合計単位数が表示されています。
 ④履修単位表を参照して、所属の学科コースから専攻基礎科目を教養基礎科目から単位取得するように指定がある場合は、専攻基礎科目とする授業科目の「専攻基礎科目」右欄に半角数字の1を入力してください。
 ⑤単位取得済みの授業科目にて、申請したい副専攻分野の●の左の空欄に半角数字1を入力して選択します。副専攻の各分野名称の下に選択中の授業科目の合計単位数が表示されます。10単位以上になるように選択してください。
 ⑥専攻基礎科目とした授業科目を副専攻に選択することはありません。また、一つの授業科目で複数の副専攻分野で選択することはありません。
 ⑦取得済みの科目入力シートに再入力する場合、このシートに表示される授業科目数が変わります。このシート(確認シート)で印に入力した内容が不一致となります。必ず、このシートの空欄の半角数字の1を全て消してから操作してください。

授業科目名称	単位	専攻基礎科目	歴史・文化		環境・科学		健康・福祉医療		教育・公共		社会・経済		国際・外国語		要確認	
			選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済		
			計	4	0	10	0	8	0	3	0	4	0	10	0	4
英語1 TOEIC	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展Aa	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展Ab	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展Ba	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展Bb	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展Ca	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展Cb	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
英語II 発展E	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
スポーツ健康科学B	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
PBLアカデミックライティング	1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
哲学F	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
宗教学D	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
西洋史B	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
演劇入門	2	1	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
比較文化論	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
日本国憲法	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
物理学2	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
地域防災論	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
音楽文化論	2	1	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
PBL現代科学理解特殊講義1	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
PBL現代科学理解特殊講義2	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
中国の文化	2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

次に、各分野の“修得済”の欄を確認します。10単位以上であれば、その分野を副専攻として申請できます。上の図では、歴史・文化分野もしくは社会・経済分野で副専攻を申請できることが判ります。次に、申請する分野を決めて、申請に使う科目の“選択中”の欄に“1”を入力してください（下図）。一つの科目は一つの分野の申請にしか使えないので、この例では歴史・文化分野の申請のために「PBL 現代科学理解特殊講義1」をチェックすると、社会・経済分野で同科目を選択することはできなくなります（手順③）。

7	授業科目名称	単位	専攻基礎科目	歴史・文化		環境・科学		健康・福祉・医療		教育・公共		社会・経済		国際・外国語		要確認	
				計	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中		修得済
				4	10	10	0	8	0	3	0	4	2	10	0		4
8																	
9																	
10																	
11	英語 I TOEIC	1														●	
12	英語 I TOEIC	1														●	
13	スポーツ健康科学B	1						●									
14	PBLアカデミック・ライティング	2				●						●					
15	哲学F	2		1	●												
16	宗教学D	2		1	●												
17	西洋史B	2		1	●												
18	演劇入門	2	1		専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	副専攻の申請はできません	
19	比較文化論	2		1	●												
20	日本国憲法	2															
21	物理学2	2				●					●						
22	地域防災論	2				●					●						
23	音楽文化論	2	1		専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	副専攻の申請はできません	
24	PBL現代科学理解特殊講義1	2		1	●						1	●				※20単位以上で選択されています	
25	中国の文化	2														●	
26																	

【手順④】

最後に、“申請フォーム”タブをクリックして最終確認を行います。申請フォームに記載されている科目すべて（申請分野の枠内と専攻基礎科目の枠内の科目）が単位修得済であることを成績通知書で再度確認してください。確認できたら申請年月日を入力し、ファイル名を学籍番号・氏名に変更して「共通教育学生掲示板」の申請書提出場所へアップロードしてください。なお、“申請フォーム”シートは印刷して、大切に保管しておいてください。

副専攻認定申請書											
三重大学全学共通教育センター長 殿											
この度、下記のとおり副専攻を申請しますので、よろしくお願い致します。								申請日 令和〇年〇月〇日			
学籍番号		所属学部		氏名		共通 太郎					
532625		生物資源学部									
履修・文化											
科目コード	科目名称	単位	科目コード	科目名称	単位	科目コード	科目名称	単位	科目コード	科目名称	単位
L10001	数学F	2									
L10012	数学D	2									
L10023	西洋史B	2									
L50001	比較文化論	2									
L20004	PBL現代科学理解特許講義I	2									
合計単位 10		合計単位 0		合計単位 0		合計単位 0		合計単位 0		合計単位 0	
専攻基礎科目											
科目コード	科目名称	単位	科目コード	科目名称	単位	科目コード	科目名称	単位	科目コード	科目名称	単位
L10027	基礎入門	2									
L12404	普通文化論	2									
合計単位 0		合計単位 0		合計単位 0		合計単位 0		合計単位 0		合計単位 4	

申請後、申請のために指定した教養基礎科目（副専攻科目）の単位修得状況および専攻基礎科目の単位修得状況の照会が行われ、問題がなければ申請が受理されます。科目名、単位条件（10単位以上）にエラーがあると再申請できるのは1年後になってしまうので、間違いがないように充分確認してから申請してください。

【副専攻分野の追加について】

副専攻は複数の分野で申請することが可能ですが、複数の分野を同時に申請することが必要です。例えば、ある年度に1分野での副専攻が申請・受理されていて、次年度に異なる分野を追加申請したい場合は、前回申請した一つ目の分野についても同時に再申請が必要です。追加する分野のみ申請した場合、一つ目の分野の申請・受理は無効になってしまうので注意してください。

なお、再申請する際には、前回申請した分野についても科目を入れ替えることが可能です。